

外出支援ボランティアの協力を得て、車いす利用者が社会参加した事例

車いすを利用している男性から、定期的に通っている語学教室まで付き添いをしてくれるボランティアを紹介してほしいとの相談がありました。

区社協職員が依頼者宅を訪問し、詳しく話を聞いたところ、「語学教室は、1回休むと感覚が鈍る。また、自分の唯一の楽しみで生きがいでもあるため、是非とも出席したいが、一人では無理なので、ヘルパーの付き添いを頼めないときに付き添ってもらえるボランティアを紹介してほしい。」とのことでした。

ボランティアで安全に対応できるかどうかを確認するため、一度、区社協職員が道のりを付き添って見たところ、バスと地下鉄を利用することもあり、付き添い経験のないボランティアでは活動は困難だと考えました。また、実際にご一緒したことで、地下鉄の車内で車いすが待機できる箇所が限られていることや、おしゃれにデザインされた溝のある通路を通ると、車いすの利用者には振動があり不快に感じるなど、様々なことにも気づかされました。

その後、高齢者・障がい者の付き添いや車いす介助に慣れているボランティアにつながるのがよいと判断し、福岡市内で活動している外出支援ボランティアグループの「V○ひまわり」に依頼し、会員を派遣してもらえることになりました。

「V○ひまわり」の会員は、付き添いの技術を学んでおられるため、依頼者の不安感も解消され、活動中の会話も弾み、依頼者も目的が達成されただけでなく、貴重な外出の機会を本当に楽しく過ごすことができたと話されていました。その後、不定期に活動を依頼されていますが、依頼者の高い信頼も得ています。

外出したくてもなかなか付き添いが頼めない高齢者や障がいのある方々にとって、「V○ひまわり」の活動は社会参加のための心強い味方になっています。市ボランティアセンター（Tel 713-0777）では、外出支援ボランティア養成講座も定期的実施しています。



今月の 気（KEY）になる！！キーワード

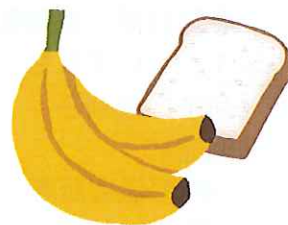
「フードバンク」



フードバンクとは、パッケージ不良や形状が規格外、商品の入れ替えなどの理由で、品質上の問題はないのに廃棄されている食品を、食べ物に困っている人や施設などへ無償で提供する活動、およびその団体です。食品メーカーや流通・小売業者から寄付された余剰食品を一時的にストックし、必要などころへ配分することから「フードバンク（食べ物の銀行）」とよばれています。

日本は、先進国の中で最低レベルの食品自給率（40%）であるにもかかわらず、食べずに捨てられる食品が大量発生している飽食国家です。農林水産省によると、企業や家庭から出る食品廃棄量は、年間約1900万トンにもものぼり、うち食べられるのに捨てられている食品ロス量は500万～900万トンにもなるといいます。その反面、物の価値を十分に生かせず無駄になってしまうことを戒める「もったいない」という言葉は、日本独特の概念とも言われています。

このような背景から、フードバンクの活動は、生活に困窮している人の命を支える重要な取組みとなっています。



車いすの貸し出しを行っています。

西区社協では、2週間を上限に無料で車いすの貸し出しを行っています。

年末年始に合わせての退院や旅行などで、歩行が不安な場合、利用してみませんか？

介助の方が操作する介助型は3台、乗っている方が自分で動かすことも、介助することもできる自走型は9台あります。利用される方が安心して快適にお使いいただけるよう、定期点検も行っています。

ご利用を希望される方は、まずはお電話でおたずねください。

西区社会福祉協議会 電話895-3110